

バイエルン国立歌劇場と並ぶ、ミュンヘン二大歌劇場のひとつ 160年以上の歴史を誇る名門で聴く、究極のドイツ・プロ

ポーランド出身のピアニストで聴くショパンの抒情、チェコのオーケストラで聴くドヴォルザークの哀愁…作曲家と同じ出身国のアーティストで聴く音楽は、やはり特別。今回の公演も、同様です。

ミュンヘン・ゲルトナープラッツ州立劇場は、パイロイト祝祭劇場を造った当時の国王・ルートヴィヒ2世の肝いりで1865年に建設された劇場で、以来ドイツ屈指の大都市・ミュンヘンの音楽界を牽引し、今ではバイエルン国立歌劇場と並ぶ二大歌劇場として称される名門中の名門。160年以上の劇場の歴史を背負い、そして音楽大国の遺伝子を正統に受け継ぐ彼らによるドイツ・プログラムは、何にも代えられません。

もちろん日本の輝ける至宝・服部百音との共演も注目です。未だ若くして国内外の主要オーケストラと度々共演を果たし、その圧倒的かつ情熱的な演奏で度々絶賛を受ける彼女が、この正統派ドイツ・オーケストラと共に贈る満を持しての大曲・ブラームス：ヴァイオリン協奏曲…期待に胸が高鳴ります。

この贅沢な内容、垂涎の共演をこのリーズナブルな価格で聴けるのは、今となってはほとんど奇跡とも言えるでしょう。ドイツ音楽の真髄、お聴逃しなく！

服部百音 (ヴァイオリン) Moné Hattori, Violin

1999年9月14日生まれ。5歳よりヴァイオリンを始め、幼少期より辰巳明子、ザハール・ブロンに師事。8歳でオーケストラと初共演し、2009年にポーランドでのリピンスキ・ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクールで史上最年少第1位並びに特別賞を受賞。10歳より演奏活動を始め11歳でミラノのヴェルディホールでリサイタルを行いグラントデビュー。ロシア、ヨーロッパに於いても演奏活動を始める。2013年にはヤング・ヴィルトゥオーゾ国際コンクールでグランプリ、新曲賞を受賞。また同年開催のノヴォシビルスク国際ヴァイオリンコンクールでは13歳でシニア部門に飛び級エントリーし、史上最年少グランプリを受賞。2015年にはボリス・ゴルドシュタイン国際コンクールでグランプリを受賞。2016年10月「ショスタコヴィチ：ヴァイオリン協奏曲第1番、ワックスマン：カルメン幻想曲」でCDデビューし、レコード芸術の特選盤に選出される。2017年新日鉄住金音楽賞、岩谷時子賞、2018年アリオン桐朋音楽賞、服部真二音楽賞、2020年ホテルオークラ音楽賞、出光音楽賞を受賞し2021年1月にはブルガリア アウローラ アワードを受賞した。

現在はN響、都響、東京フィル、日本フィル、東響、新日本フィルをはじめとする数々の著名オーケストラ、指揮者と共演を重ね海外でもマリンスキー劇場をはじめ様々な演奏活動を行っている。桐朋学園大学音楽部大学院を修了。使用楽器は日本ヴァイオリンより特別貸与のガルネリ・デル・ジェス。

ミヒャエル・バルケ (指揮) Michael Balke, Conductor

シンシナティ音楽院とリューベック国立音楽大で指揮とピアノを学び、在学中から、ラサール弦楽四重奏団、東京弦楽四重奏団等と共演。2004年よりハンブルク室内歌劇場の監督を務め、マンハイム国立歌劇場、ボンキエリ劇場、ハンガリー国立歌劇場等各地の劇場へ客演して高い評価を得る。2011年マクデブルク歌劇場第1カペルマイスター就任、14年にはイアン・ポストリッジとモンペリエ国立歌劇場に登場して話題を呼ぶ。ワーグナー財団パイロイト賞受賞者。

日本では共同制作オペラ「蝶々夫人」で好評を博した。

ミュンヘン・ゲルトナープラッツ 州立劇場管弦楽団

Orchester des Staatstheaters am Gärtnerplatz, München
ミュンヘン・ゲルトナープラッツ州立劇場は、「ミュンヘンに民衆劇場 (Volkstheater) を」という声が高まり、ノイシュヴァンシュタイン城やパイロイト祝祭劇場を造ったことで有名な即位後間もない若き国王ルートヴィヒ2世によって1864年建設が認可され1865年11月にオープン。現在ではバイエルン国立歌劇場と並んで二大オペラ劇場として市民に親しまれている。

ミュンヘン・ゲルトナープラッツ州立劇場管弦楽団は、音楽劇の多様性を示すために、オーケストラのレパートリーはバロックから現代作品まで幅広く、オペラ、オペレッタ、ミュージカル、バレエなど音楽劇のすべてのジャンルをカバーしている。2003年にAオーケストラのランクに昇格し、77人の楽団員で構成されており、定期公演を行っている。さらに、2000年以来、楽団員による室内楽シリーズを企画、メキシコや中国などの他のドイツの各都市にも招聘されている。

ミュンヘン・ゲルトナープラッツ州立劇場管弦楽団は、設立以来、著名な指揮者や音楽家とのコラボレーションを特色としている。カール・ミリオッカーやフランツ・レハールなどの作曲家たちが自作品を指揮した歴史をもち、ヴォルフガング・レンナート、フランツ・アレルス、デイヴィッド・シュタール、マルコ・コミン、アンソニー・ブラモールなどが首席指揮者を連ねており、2023/2024シーズン以降は、ルーベン・ドゥブロフスキーが指揮を行っている。

服部百音
Moné Hattori
(ヴァイオリン)

ミヒャエル・バルケ
(指揮) Michael Balke

Orchester des Staatstheaters am Gärtnerplatz, München
Michael Balke, Conductor & Moné Hattori, Violin